

「 さ さ え 」

発行 NPO福祉用具ネット事務局

住所:福岡県田川市伊田4395(福岡県立大学付属研究所 生涯福祉研究センター内)

TEL/FAX: 0947-42-2286

E-mail npo-fukusiyougunet@sage.ocn.ne.jp

HP <http://www10.ocn.ne.jp/~npofynet/enter.htm>

情報誌「ささえ」は年4回(1月・4月・7月・10月)発行しています。

本資料は、NPO 福祉用具ネットの情報誌「ささえ」30号(平成22年1月発行)から37号(平成23年10月発行)まで、ヒューマニー関連部分を抜粋したものです。



特定非営利活動法人
NPO福祉用具ネット

新製品紹介コーナー ～NO1～ 自動採尿システム【尿吸引ロボ ヒューマニー】について

NPO福祉用具ネット 事務局 大山 美智江(看護師)



尿吸引ロボ「ヒューマニー」ってな～に！

- ・ 専用の尿吸引パッドに内蔵されたセンサーが排尿を検知し、尿を瞬時に自動吸引します。タンク内にたまった尿は簡単にトイレにすてることができます。つまり、オムツと吸引器が合体したものです。
- ・ 介護保険対象品ですので本体は特定福祉用具購入助成の対象品として、在宅向けは一割の自己負担で購入できます。

今回は、ユニ・チャームヒューマンケア(株)より発売された尿吸引ロボ【ヒューマニー】について紹介させていただきます。この製品の開発段階よりNPO福祉用具ネットとして実用モニター試験に何度か関わらせていただきました。

看護師の立場から本製品に期待できることを以下のように考えています。

- ① おむつ交換の回数を少なくする → 介護者の支援(介護者の負担軽減)や要介護者の排泄に対する心理的負担の軽減が図れる。
- ② 排泄状態の客観的把握がより可能となる。→ 尿量や時間、尿の色などから得られる情報等によって排泄ケアの見直しや全身状態の管理をサポートする一助にもなる。
- ③ おむつ内のお肌の環境を快適に保つことができる → 尿汚染によるスキントラブルの予防と軽減(床ずれやオムツかぶれ等)が図れる。但し、日々のスキンケアを十分に行なった上での装着であることが前提。私の検証においては数例の検証で仙骨部への尿の付着を軽減でき、床ずれを改善することができた。
- ④ 自立支援とQOLの向上に繋がる → 要介護者の生活行動の拡大支援ができる。(車いす用の専用キャリングケースを使えばレクや外出などオムツをしたままでも出かけられる ⇒ 高齢者は外出時にオムツ交換の場所が少ないという課題がある。)、肌の爽快感、オムツ外し、パッドの当て方の工夫によってよりすっきりとしたオムツの当て方にも繋がる。

その他、活用の仕方次第では、⑤環境問題 ⇒ オムツ資源の削減、⑥経済効果 ⇒ 夜間のおむつ交換のための訪問介護サービスの軽減や個人のオムツコストの削減、⑦治療手段への利用 ⇒ 非侵襲的な手段として排尿管理にも応用(カテーテル留置の代替品)などが考えられます。

但し、ヒューマニーは適切に装着することが大切です。決して安易に手抜き介護を推奨するものではありません。まずはこれまでのおむつ内の【びしょより・ぐしょより】を少しでも補う程度の気持ちから使用してみたいかがでしょうか？最初から完璧な装着は無理と考えた方が良いでしょう。少しずつ取り扱いに慣れてくれば「より確実に効率的な使い方」ができるようになると思います。

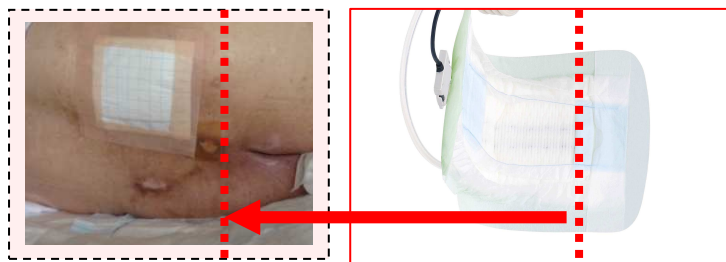
排便との調整や男性の装着方法などまだ課題もありますが、使う対象者の条件はみんな異なります。介護者の状況や要介護者の身体状況など現場でいろいろと工夫して使われることをお勧めします。

本製品の詳しい情報はユニ・チャームヒューマンケア(株)のホームページをご覧ください。

自動採尿システム（尿吸引ロボ ヒューマニー）への期待と効果

その2 床ずれのある方への利用法

NPO福祉用具ネット 事務局 大山 美智江（看護師）



堰止め部分の装着位置

床ずれはスキンケアや栄養管理も大変重要となります。床ずれの深さや広さなどによって対応が無理な場合もあります。医師や看護師と相談の上で活用して下さい。

前回、新しい開発品「ヒューマニー」について、「**「びしょり・ぐっしょり」**にさせないオムツとしてまずは気軽に使ってみましょう。」と紹介しました。

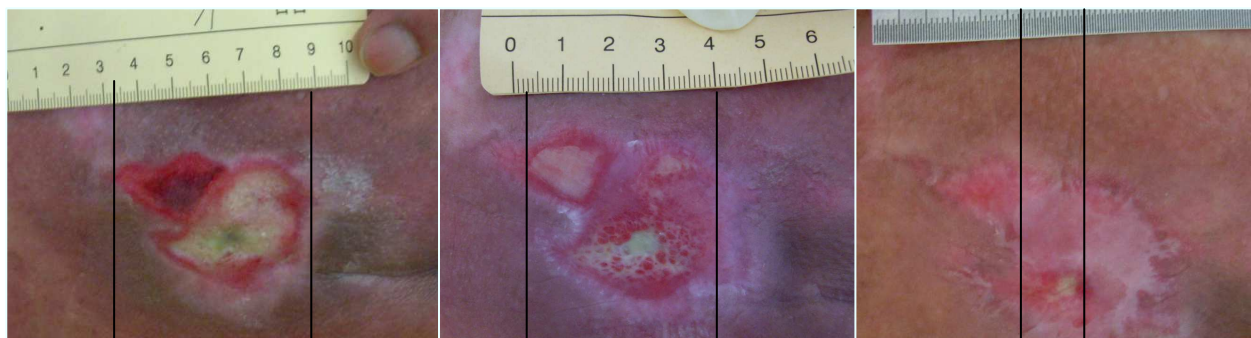
そこで、今回は本製品の尿吸引パッド部分の特徴と、モニター事例より確認できた「床ずれへの効果」について報告させていただきます。

まず「ヒューマニー」のパッドは、尿を検知するセンサーと、検知後に尿を直ちに吸い取るチューブが付いていますので、パッド内はいつも「**さらさら状態**」に保つことができます。この吸引機能により小さなパッドサイズでも排尿時に皮膚を濡らす部分を少なくすることができます。また、パッドのお尻側への尿の流出を少なくする「**尿堰止め部分**」（尾骨を保護するためのクッション付き）を作ることによって、尿が尾骨から仙骨部の方向へ流出することを最小限に食い止めることができます。これまでの吸収量に応じたパッドやオムツを使うと、皮膚の接触部分（面積）も広範囲になります。ヒューマニーのパッドの吸収部分は僅か 9cm×21cm 程度です。排尿方向を見極めてパッドを密着させることで床ずれへの影響を防ぐことができるということです。

これまで私は、17 人の対象者に対してモニター試験を行ないました。その内、床ずれのある事例 6 人に対しては、ヒューマニーの「**尿堰止め部分**」をうまく利用することで、すべての事例において床ずれの改善効果を確認することができました。下の写真は、91 歳の女性（要介護度 5）の床ずれの変化の状態です。パッドの交換は 1 日 2 回朝夕に実施し、装着前のスキンケアは石鹸を用いて周辺部分まで丁寧に行ないました。創の手当では医師の指示通りに施設職員と連携して行ない、その結果僅か 2～3 週間程度で明らかに床ずれを改善させることができました。他の 5 事例も同様に床ずれの改善効果が明らかになりました。

これまでの看護経験では、仙骨部に大きな床ずれができてしまうと仕方なく留置カテーテルを挿入して、床ずれの改善を図るようにしていたこともありましたが、本製品を実際に使用してみて、床ずれの予防効果はもちろんですが、床ずれを治すための有効な一手段となり得るのではないかと考えます。

【 91 歳女性の床ずれの改善の写真 】



1 日目 約 5.5cm

10 日目 約 3.7cm

24 日目 約 1.0cm 程度

自動採尿システム【尿吸引ロボ ヒューマニー】を上手に使うために その3

NPO福祉用具ネット 事務局 大山 美智江(看護師)



尿吸引ロボ「ヒューマニー」って な～に！

- ・ 専用の尿吸引パッドに内蔵されたセンサーが排尿を検知し、尿を瞬時に自動吸引します。タンク内にたまった尿は簡単にトイレにすてることができます。つまり、オムツと吸引器が合体したものです。
- ・ 介護保険対象品ですので本体は特定福祉用具購入助成の対象品として、在宅向けは一割の自己負担で購入できます。

ヒューマニーを上手に使うためには利用される方の身体状況に応じた工夫が必要です。

「尿が外に漏れて困るという方」、「お尻が痛い方」・・・以下の点に心当たりはありませんか？

① パッドのしくみを理解しよう

採尿パッドのどの部分から尿が吸い取られるのかを理解してパッドをあてましょう。

姿勢による尿の流れを考えて、吸引部分に尿が流れ込むように工夫してあてるとうまくいきます。

② 当て方の基本は密着させること

基本的にはネットパンツ等で採尿パッドの位置がずれないように密着させることです。せっかく適切な位置に装着をしても、寝返りやリハビリ・食事などでギャジベッドを挙げたり下げたりしたときにパッドがずれてしまったら、パッドの外に漏れてしまいます。股ぐりの部分はハイレグにしてソケイ部の隙間をつくらないようにして下さい。ネットパンツのサイズも大きすぎない適切なサイズをお選び下さい。

体位変換時やリハビリなどの後は、パッドがねじれたり、ずれたりしていないか手をいれてパッドの位置を確認して下さい。そんな一手間が成功の秘訣です。

③ 移動や移乗の介護はパッドを引っ張らないように配慮すること

体位変換時や車いすへの移乗介助の際にオムツがずれるような介護の仕方をするとうパッドの位置がずれてしまいます。特にズボンなどを引っ張るとオムツもずれてしまいますので注意して下さい。

採尿パッドとテープ止めを併用している場合は内側の採尿パッドがずれやすくなっています。

パッドがずれやすい場合は「滑り止めマット=玄関マットなどの下敷き用」をパッドサイズにカットしてテープ止めと採尿パッドとの間に挟むとパッドがずれ難くなります。

④ 車いすに座るときはクッションを使うこと

ヒューマニーの使用の有無に関係なく、車いすに座る場合は厚さ5cm 以上のクッションを必ずご使用下さい。ヒューマニーのパッドの吸引部分やチューブの差し込み口の位置のズレが原因で不適切な位置にパッドがずれてしまうと、尾骨部分を圧迫して痛みがでたり、床ずれの原因になったりします。

車いす使用時は、クッションを使うこととズッコケ姿勢にならないように十分ご配慮下さい。

⑤ 一日一回はスキンケアを丁寧に行ないましょう

ヒューマニーを上手に使うためには、一日一回の丁寧な陰部洗浄がお勧めです。入浴日以外の日には石鹸を使ったケアをしてあげて下さい。オムツただれや床ずれの予防にもなります。

きれいにした後は保湿クリームや排泄物の皮膚への付着を防ぐ撥水性のクリームなどを使うとよいでしょう。

* 次回は男性パッドの工夫についてご紹介します。

自動採尿システム【尿吸引ロボ ヒューマニー】を上手に使うために

その4 男性パッドの当て方について

NPO福祉用具ネット 事務局 大山 美智江(看護師)



尿吸引ロボ「ヒューマニー」

男性パッドの工夫例

図 1

姿勢や性器の長さなど使用条件がありますが、上手に使用できている方もいます。



ヒューマニーの採尿パッドは一種類しかありません。しかも、現在のパッドは主に女性をターゲットとして発売されたものです。ところが、ヒューマニーが、いざ発売されてみると予想以上に男性の利用者がとても多いことがわかりました。もちろん、男性のご利用者様も女性と同様の当て方で上手に採尿できている方もたくさんおられます。しかし、中には試

たが失
た。

男性

①陰

②これまでの排泄習慣が個々によって違うこと、
③女性のようにフィッティングを強くすると尿道を圧迫されて排尿し辛くなること……などの理由や、
④不快感などの要因から「いじり」の問題なども起こることです。

尿道口がオムツ内から方向が大きくずれると大量の尿漏れになります。このような男性特有のオムツの問題は予想以上に介護の現場で問題となっていたのではないのでしょうか。私が現場の介護職の皆様にはヒヤリング調査をした結果からもこれらの問題は明らかでした。要介護者は女性が多く、男性のオムツ使用者の排泄の問題は少人数のトラブルとしてあきらめられていたのではないかと感じました。

そんな背景の中、今回のヒューマニーは、瞬時に尿を吸引してくれる。これでオムツの男性の外漏れは解消されるのではないかと大きな期待感を抱かせたのでしょう。

そこで、男性のパッドを成功させるためのポイントを考えてみたいと思います。

ヒューマニーを男性に利用するためには最初に述べた男性の課題に応じた使い方(パッドの当て方)を工夫しなければ採尿はうまくできません。

①陰茎部のサイズに応じた当て方 ⇒ 尿道口がどの位置にあるのか、また尿の流れがどのように流れ

てパッドの吸引部分にいくのかを見極めること。つまり、性器の先端(尿道口)をどの位置にあてるのかがポイントになります。性器の長さが短く、体の大きい方ほどパッドあて位置の調整が難しくなるようです。

男性 パッドの真ん中(折れ目)が尿道口にあたるようにあてます。

今は、男性用パッドが発売されたため、このような使い方の必要はなくなりました。

②本人にとって心地良い当て方 ⇒ 本人にとって陰茎部の位置が心地よい位置にあることは極めて大切なようです。不快感はいじりの原因となります。従って、これまでのオムツの使用状況は大切な情報源です。貝巻きをしていた方は突然に平たいパッドを当てると陰のう部やソケイ部に尿が流出することはとても不快となるようです。陰茎部を上向にするのか下向きにするのかなども大切な要因のようです。サイズだけでなく、これまでの排泄習慣なども影響します。決った当て方ではなく、百人百様に個々に応じて見極める必要があるようです。

③お試して、見極めること ⇒ 失敗の原因を明らかにすること。どのように当てて、どのように漏れたかは大切な手がかりになります。(これは女性の場合も同様です。女性も体型が異なります。太っている人も痩せている人も同じパッドを使うのですから正しい位置に吸引面があたるようにすることや夜間の体位変換や移乗動作の際にパッドの位置がずれないように配慮することが必要になります。)

* 図 1 は介護の現場で工夫をし、実際に成功している使い方の工夫例です。詳しくはNPO事務局大山までお問合せ下さい。

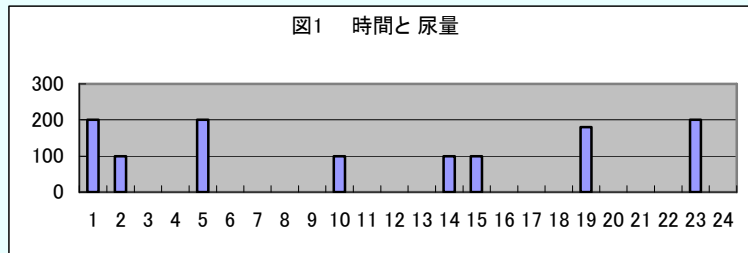
自動採尿システム（尿吸引ロボ ヒューマニー）を上手に使うために

その5 排尿チャートとしての活用法

NPO福祉用具ネット 事務局 大山 美智江(看護師)



尿吸引ロボ「ヒューマニー」



心身の機能が低下し、やむを得ず排泄手段にオムツが選択されるとその後も安易に継続的にオムツ使用となる場合が多いようです。オムツを使用する前に十分なアセスメントが必要なことはいうまでもありませんが、一旦、オムツの使用となった事例についても定期的にはアセスメントを行うことは大切です。

排泄時間や一回の排尿量、水分摂取との関係など排泄パターンを把握することはオムツ交換の時間を決めるだけでなく、トイレ誘導の判断にもなります。排尿量に応じたパッド用品の見直しとなり、漏れない効果的なオムツの当て方ができるようになります。失禁のパターンが分かれば治療に役立てることもできるでしょう。

これらの意義から、排尿チャート(日誌)を記録し排泄ケアの見直しを定期的実施することの意義は大きいと思います。本人にとっても介護者にとっても心身の負担となっているオムツ利用も現実には仕方がないとあきらめてしまっている場合が多いのではないのでしょうか。

そこで、今回はある介護施設で排泄ケアの見直しのために尿吸引ロボ「ヒューマニー」を活用した事例について紹介します。

(ヒューマニーは自動吸引型オムツですが尿量を把握できる福祉機器でもあります。一定期間、水分や食事摂取量とともに時間ごとにタンク内に貯まった尿量をチェックすると排尿チャートをつくることができます。)

今年8月に入所者のオムツケアが効果的にできているか見直したいというきっかけでスタートしました。一人の利用者に3日間から10日間程度、水分摂取量・食事摂取量・排便・排尿量を記載しました。排尿は1時間ごとにヒューマニーのタンクに貯留した量を記載して貯まった尿をその都度廃棄していく方法で行いました。つまり、一時間ごとに出た尿量が記載されることになります。

オムツ使用者の13人に実施しました。その内の3人は認知症のためにチューブを引っ張ったりされて

計測できませんでした。10人の排尿チャートが随時完成し、その都度、施設内の排泄委員会で検討され排泄ケアの見直しが行われました。吸収量に応じたパッドに変更され、交換時間の見直しも行われました。オムツの見直しという視点からも経済的な効果がありました。勿論、パッド交換回数が増えた事例もありました。より心地良い排泄ケアに見直された訳です。日々の見直しが一ヶ月になると一事例でも1,000円から2,000円の経済的な効果が得られたケースもありました。さらに排尿チャートを記載することで水分補給の見直しも行なわれました。それは尿量や濃縮された色を介護職員が直接確認したことが動機付けとなったからでした。

その後も入所者の身体機能の変化に伴い、ヒューマニーを活用されました。ターミナル時期における床ずれ防止や末期の排尿量の把握目的で使用した事例では一日150から300ml程度の尿量を正確に把握でき、医師との連携に役立てることができました。その結果、再び食事が摂取できる状況に回復をされました。もちろん、床ずれを発生させることもありませんでした。

今回の施設の検証で一番驚いたことは、ヒューマニーは【パッドの装着が難しい】と指摘されている中で、この施設の介護職員はとても上手に採尿パッドを装着できていることです。導入前に一時間程度、排泄委員を対象に指導しただけですが、その後全職員に使用方法が伝達されてヒューマニーを見事に活用できていることには大変驚かされました。

実は、この介護施設はテナのオムツを長年活用されています。尿量にあわせた一枚のパッドをネットパンツでフィットさせる装着方法に関してはプロという訳でした。ヒューマニーの採尿パッドのしくみを理解できれば簡単なことだったようです。ヒューマニーを上手に使えるということは、これまでのオムツに対する習慣や価値観なども影響しているのではないかと改めて感じた次第です。

* 図1は得られた排尿チャート(1時間ごとの尿量)の一例です。

自動採尿システム【尿吸引ロボ ヒューマニー】を上手に使うために その6 介護施設での実践報告

NPO福祉用具ネット 事務局 大山 美智江(看護師)



このコーナー「その 2」で、床ずれのある方への利用法についてご紹介させていただきました。先日、ある介護施設の特別養護老人ホームで床ずれ事例にヒューマニーを活用して床ずれが治癒したとの報告を受けました。ご存知のように特別養護老人ホームには常勤の医師はいないし、看護職員も日中のみで夜間は不在となります。このような体制の中でもやはり医療依存度の高い入所者も多く、命をあずかる最前線の介護スタッフの労力とストレスは大変なものだと推察できます。そんな中で身体機能の低下や栄養状態の悪化などで残念ながら床ずれが発生してしまうと、その改善のための介護はとても大変なことだと思います。床ずれの悪化はとても早く進行し、それを治すのは大変な時間と労力を費やすことになります。

前回のこのコーナーでヒューマニーを活用することで、尿量や色の把握ができることの意義についてご紹介いたしましたが、この製品が介護の現場のスタッフの皆様の一助になっていることを実感しました。最期の段階で病院への移送をせずに特別養護老人ホームで看取りをする事例も増えていくと聞きます。終末期の時期において、血圧や呼吸や脈拍や皮膚の色などとともに尿量の変化は死期を推測するひとつのパロメーターにもなります。医療職の少ない施設にとっては客観的に排尿状態を監視できることはとても心強いものだと思います。オムツ内では度々観察することもできず、尿量も把握できません。(入院している場合には留置カテーテルで観察しています。)尿吸引ロボ ヒューマニーは尿量を観察するロボットの役割を担って、利用者様の最期の身体負担の軽減に役立ち、さらに介護スタッフにも心理的サポートをしてくれるものと考えれば素晴らしい機器ではないかと感じました。このような活用方法があることを学ばせていただきました。

さて、この施設での床ずれの活用について施設のご協力で情報をいただきましたので発症から治癒までの経過を簡単にご紹介させていただきます。

◆事例の概要

74歳 女性 身長152cm 体重 36.3kg

要介護度 5

脳出血右マヒ 栄養 ミキサー食 全介助

◆方法 原則一日1回の採尿パッド交換。交換前後に排便コントロール。創処置はパッド交換時に実施。入浴は週に2回。

◆経過

・平成22年11月4日左臀部(仙骨部付近)1.5cm×2cmの発赤あり処置開始

・11月25日 表皮剥離 ・11月30日 悪化

・12月 3日 ヒューマニー使用開始

・12月13日 壊死部分切除。その後徐々に経過

・平成23年2月1日 治癒を確認

◆治癒までの経過は上の写真をご参照下さい。

◆施設職員によるヒューマニーの活用効果に対する感想は以下のとおり。

- ① 尿汚染による感染防止を図る。
- ② 尿汚染によるガーゼ交換の手間を軽減できる。
- ③ 尿量の把握による水分管理が容易となる。
- ④ 尿の吸引を確認できることでオムツ内観察の頻度を少なくでき、介護職にはとても助かった。...

床ずれの要因は局所の問題だけではなく。施設職員が一丸となって体位変換やポジショニング、栄養補給などすべてに最大限の努力をされた結果治癒させることができたのだと思います。

特に、今回はNPOの紹介記事を参考に施設職員の判断でヒューマニーを活用したこと、その結果、複数の職員がヒューマニーを上手に取り扱えたことです。さらに、本事例は2月1日に床ずれの治癒を確認して通常のオムツに戻した直後に再び表皮剥離し悪化したとのことでした。改めて床ずれとオムツについて考えさせられたそうです。尿量とパッドの種類、交換時間など工夫と努力の結果、ようやく改善することができたとのことでした。

自動採尿システム【尿吸引ロボ ヒューマニー】を上手に使うために その⑦ 新しい排泄ケア用具の認知度

NPO福祉用具ネット 事務局 大山 美智江

(看護師・ケアマネージャー・福祉用具プランナー)

福祉用具は自立支援や介護負担のためには、欠かせない手段のひとつです。しかし、今市場にある福祉用具の情報が十分に伝わっているかといえば疑問に思う。

福祉用具を使う当事者の皆様は、新しい情報に触れる機会も少なく、その多くは介護職やケアマネージャーに委ねられているのが現状です。

情報収集の場である福祉用具展示会も介護保険制度スタート当初の熱意からは少し冷やかな傾向にある。

福祉用具は選ぶ専門職の皆さんが知らなければ利用されにくい。以前の私がそうであったように、知らないものや使った経験のない福祉用具をケアプランに入れることはとても不安だからです。しかし、福祉用具を上手に活用すれば、介護上の問題の中で解決されることがあることも忘れてはならないと思います。

取り敢えず、ヘルパーというマンパワーで補っておこうという介護手段はどこかで検討し見直さなければならぬ場合も生じる。しかし、一旦スタートした介護環境を途中で変化させることはとても難しいという課題も現場の介護経験者なら同感していただけるのではないかと思います。

利用者や介護環境などは時間の経過とともに変化します。最初の段階の対応策は、きわめて重要ということになります。取り敢えずの対応策を延々と続かせないためには変化に応じて、さらに少し先を見据えながらの支援策も求められる場合もあるでしょう。

一例として、尿吸引ロボ ヒューマニーという新しい福祉用具について考えてみたいと思います。

今年の4月に開催された大阪のバリアフリー展(福祉用具展示会)で、自動採尿器ヒューマニーを展示しているブースの前で興味を示した来場者にメーカーの関係者がヒヤリングをしました。その結果、多くのケアマネージャーや介護職の皆さんがヒューマニーという製品を知らないということがわかりました。その認知度の低さにメーカーの方はショックのようでしたが、福祉用具はテレビでコマーシャルされることはありません。展示会や研修会、仲間からの口コミで新しい情報を得ることが殆んどです。耳を傾けていないと情報はなかなか入り難いものです。世界で初めてだろうといわれている新製品ヒューマ

ニーも例外ではなく、家電品などの新製品とは異なります。

ヒューマニーは発売されてからおよそ2年ですが、排泄ケア用品の一つとして、活用するか否かは別にしても、是非知っていてほしい福祉用具です。というより専門職として知っていなければならないものだと思います。何故ならば、このヒューマニーという製品は他に同等の製品がないからです。

余談ですが、ヒューマニーは新しい排泄ケア用品として8年もの長い歳月を費やし、ようやく製品化できたものです。その開発の裏側のドラマをたくさんみてきた者としてこの製品に込めた開発チームの強い想いを是非多くの関係者の皆様にも知っていただきたいと思います。

マンパワーの不足や超高齢社会の中での老老介護や一人暮らしの現実の悲鳴の対応策として誰でもがやがて訪れるであろうオムツのお世話になる時期の解決策として開発されたものです。

私も、このコーナーでヒューマニーの活用で経験してきたことの中で、特に知っていただきたいと思うことをいくつか紹介してきました。もちろんヒューマニーという排泄ケア用具は、尿器・便器・ポータブルトイレ・オムツやパッド類や特殊尿器などの中の選択肢の一つですがこれまでには存在しなかった新製品です。

介護保険制度がスタートして10年を経過しています。頑張る介護はとても素敵なことですが、頑張りすぎる介護は大変です。決して手抜き介護を推奨するものではありませんが少しメリハリをつけた介護方法を考えてもよい時代なのではないでしょうか？

・・・と私は思っています。

福祉用具情報は知っていると得ですが、知らないで損です。解決手段の一例として情報を提供することも専門職としての務めではないかと思います。

支援するためのさまざまな解決手段を「引き出し」としてたくさんもっているケアマネージャーの方にめぐり会いたいものです。

【福祉用具の展示会には積極的に向いて、新しい福祉用具の情報収集をしましょう！】

平成23年10月5日(水)から7日(金)

東京国際福祉機器展開催

平成23年11月18日(金)から20日(日)

西日本国際福祉機器展開催

自動採尿システム「尿吸引ロボ ヒューマニー」を上手に使うために

その8 ヒューマニーのフィッティングの課題

NPO福祉用具ネット 事務局 大山 美智江（看護師・ケアマネージャー・福祉用具プランナー）

私は、このコーナーでヒューマニーという新しい福祉用具をうまく活用するためのヒントになれば、との思いから、これまでに経験した事例や気付いたことなどを紹介してきました。

NO,1では、「ヒューマニーという新しい製品への期待や活用の意義について」、NO,2では、「床ずれのある方への活用方法の紹介」、NO,3では、「身体条件に応じたヒューマニーの工夫例」、NO,4では、「男性への当て方の工夫」、NO,5では、「排尿チャートを記録するためにヒューマニーを活用し、排泄ケアを見直したことや、ターミナルの尿量把握に活用した事例」、NO,6では、「施設での床ずれ対策として活用して見事に治癒をさせた事例」を紹介し、NO,7では、「福祉用具としてのヒューマニーの認知度について」掲載しました。

2010年の1月からこのコーナーをスタートさせましたがその後、ヒューマニーという新しい福祉用具が、介護の現場に浸透していくようすも間近にみてきました。つい最近も、使い方の相談を受けてフィッティング指導など介入を行なった結果、上手にヒューマニーを活用できるようになった事例を数例経験いたしました。

ヒューマニーだけでなく、さまざまな福祉用具との関わりの中でいつも感じること、それは、福祉用具は上手に使えるれば介護の必需品であるという実感です。生活の質が目立って変化していきます。

ヒューマニーもそんな画期的な開発品であることはいまでもありません。しかし、上手に使いこなすためには、身体状況が百人百様に異なる利用者、そして、さらに用具を使う側、つまり介護者の条件など、その使い方には個々に異なるために、その条件に照らした対応が求められます。現場では、まだまだその使い方など浸透しているとはいえないようです。もちろん、リフトや車いすなど他の福祉用具についても同じことが言えるのですが。

介護保険がスタートして10年以上も経過していますが、リフトもうまく活用できなくて、相変わらず腰痛と闘いながら人を抱える介護を続けています。車いすも姿勢が崩れ、とてもきつい姿勢で長時間座らせられている光景もよく見かけられます。敢えて、座らせられていると書きました。文句をいえない利用者は表情で訴えているのですが、心の叫びを私達はどのくらいキャッチしてあげているのでしょうか？薄い座布団、しかも綿の部分は端の方に片寄っている、そんな車いすに何時間も座り、体動も思うようにできない状態の方に対して、どのくらい気配りのあるケアができていえるのでしょうか？

排泄はとても見え難い部分のケアです。オムツの当て方で失敗しても一番困るのは汚染されたものを更衣させたり、シーツを交換し洗濯をする人なのです。もちろん当事者が一番気持ち悪いのですが、「気持ちが悪いので、しっかりと漏れないようなオムツをあててよ！」と文句が言えません。ましてや、恥ずかしい部分です。人に見せてうまいあて方を教わるということも嫌です。赤ちゃんのオムツのあて方は男の子、女の子と性別の違いのポイントを妊婦さんへの教育で教えられます。

しかし高齢者のオムツのあて方は性別の違いだけではうまく装着できません。体型の違い、身体の動けない方や関節の可動域の制限のある方、また、男性の場合は性器の長さや排泄習慣などによっても工夫が必要でとても難しいという事情があります。

そんな中、新しく開発された福祉用具、自動採尿器「ヒューマニー」を紹介されたとしても、最初から簡単にうまく使える訳ないと、つい言いたくなりそうな気持ちになります。これまでさまざまなオムツを使っても、たくさんの失敗をしている人々が、“瞬時に吸引”してくれるので今度こそは漏れないだろうと期待します。しかもオムツ交換も少なくして良いと期待し、ようやくたどり着いた福祉用具という訳です。当然のことですが、これまで困難となっている個々の事情を理解した上で、改めて身体状況や介護者の条件に合わせてのフィッティング技術が求められることになります。

しかし、現在の介護現場で、それぞれの個別の状況を判断し、使えるように指導するのは誰の役割なのか、少し戸惑いを感じます。

新しい福祉用具として、メーカーの主催する勉強会でヒューマニーについてたくさんのことを学んではいるのですが、身体の介護経験のない、ましてや、オムツを販売しても実際に装着に関わることがない福祉用具専門相談員さんがどこまで介入できるか、それよりもヒューマニーの特徴や使い方もよく知らないがオムツの当て方については経験が豊富なヘルパーさんが主となって介入した方が良いのか、と悩みます。

そうなんです。福祉用具は他にも同じようなものがあります。車いすと調整、床ずれ防止用具と介護技術や創傷ケア、これらも他職種との連携が大切です。

福祉用具を選ぶ人と使う人、さらにフィッティング技術を持つ人など他職種による連携と協力体制が求められます。どのように連携したら良いのか、戸惑いつつ今日に至っているような気がします。

ちょっと連携すれば解決できることです。現場にこんな課題があることも知らないまま、利用者はうまく使えない現実に落胆してしまいます。

これらを解決するのは、福祉用具を取り扱う私達が、その職域を越えて、その使い方をしっかりと学び、上手に使う知識と技術を知っていることで、このことはとても大切なことではないでしょうか。

また、個々の状況に応じた使い方を見出すためにはしばらくの間、お試しをしながらフィッティングをすることも重要なことです。

NPO福祉用具ネットでは、さまざまな専門職の方を対象に研修会を開催していますが、オムツフィッターなど介護職や看護職を対象とした排泄ケアの研修会に作業療法士や理学療法士の方が受講されることがよくあります。在宅で生活されている利用者や介護者を支えている介護チームの一員としては、その垣根を越えた知識は必要なのだと教えられました。オムツは介護職の仕事だから関係ないのではありません。例え、直接のケアをすることはなくても、その現場に居合わせた専門職としてアドバイスのできる知識や技術はとても大切なことだ、と改めて思います。

自動採尿器ヒューマニーの上手な使い方が浸透して、多くの困難事例の方のQOLの向上に繋がることを心から願っています。

ヒューマニーの使い方がわからな方、困っている方は、NPO福祉用具ネット事務局まで気軽にご相談下さい。（0947-42-2286）

情報誌「ささえ」平成23年10月1日発行予定含む

